教　科	社　会　（小・中）

	指　導　の　重　点	努　力　事　項
指導計画の作成	○　主体的に社会的事象の意味を追究し、基礎的・基本的な内容を確実に身に付けることができるよう指導計画を改善する。	○　地域の実態を十分に把握し、地域の社会的事象を取り上げた学習や体験的な学習を指導計画に位置付ける。学習能力の実態や発達の段階に応じて、「適切な課題を設けて行う学習」を指導計画に位置付け、課題を解決する能力を一層培うようにする。 ○　小・中学校社会科の内容の関連や系統性を踏まえるとともに、「育成する力」を明確にして具体的な事例の適切な選択や指導内容の重点化を図る。
指導の工夫	○　学び方や調べ方の学習、作業的、体験的な学習や問題解決的な学習を工夫し、子どもの主体的な学習を一層推進する。	○　課題を追究したり、考察したりする学習を通して、学び方や調べ方、資料活用の仕方、社会的事象についての見方や考え方を身に付けられるようにする。 **◎　子ども同士が、調べたことや考えたことを書いたり、説明したりする場、社会的事象の意味や意義を根拠を明らかにして解釈したりする場を設け、言語活動の充実を図る。**
評価の充実	○　ねらいが達成された具体的な姿を明確にし、子どものよさや可能性を伸ばす評価を工夫する。	○　学習の成果だけでなく学習の過程において、取組状況や進歩の様子などを把握し評価することにより、学習意欲の喚起を図るとともに、その後の指導に生かすようにする。 **◎　相互評価や自己評価を取り入れるなどして、児童生徒が自分のよい点や進歩を実感できる多面的・多角的な評価に努め、学習意欲の向上を図る。**

※は参考文献等

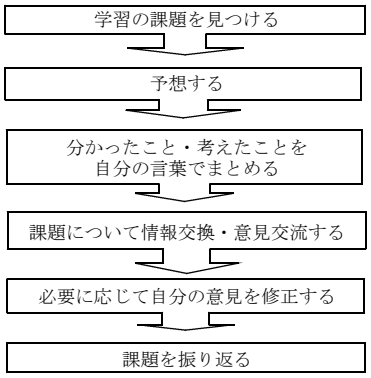
問題解決的な学習を中軸とした授業の充実のために

授業づくりのポイント５（「【参考資料】確かな学力の向上のために」P13）
思考の共有と吟味を促す学び合いをコーディネートする力の向上

◎　子ども同士が、調べたことや考えたことを書いたり、説明したりする場、社会的事象の意味や意義を根拠を明らかにして解釈したりする場を設け、言語活動の充実を図る。

・　子ども同士の学び合いを通して、結論に向けた理由付けを行い、社会的事象の意味や意義をつかませる活動を取り入れる。

問題解決的な学習のパターン例（右記）における「調べる」「まとめる」「情報交換・意見交流する」を重視する。



例 ①　教科書、資料集、図書等を活用して情報を収集及び選択し、調べたこと、分かったこと、考えたことを子ども一人一人にまとめさせる。

②　ペア学習・グループ学習・一斉など、ねらいに応じて適切な形態で学び合う時間を設定する。

その際、発表のみにとどまるのではなく、学びを深めること（新たな発見や気付き、考えの変化や修正、理由付けの話合いなど）につながる交流となるようにする。

③　学級全体で、本時の学習課題に対する社会的事象の意味や意義を、根拠を明らかにして結論付ける。

教師は、①～③の過程で子ども一人一人の学びを見取り、思考を高める言葉かけをしたり、子どもの考えをつないだりする。

授業づくりのポイント６（「【参考資料】確かな学力の向上のために」P15）
学習内容の定着を図る「振り返る活動」の充実

◎　相互評価や自己評価を取り入れるなどして、児童生徒が自分のよい点や進歩を実感できる多面的・多角的な評価に努め、学習意欲の向上を図る。

・　学習の過程に視点を置き、感想を書かせたり、発表させたり、自己評価させたりする。

【振り返りの視点としての例】

「何が分かったのか」（知識・理解）

「どのようにして分かったのか、考えたのか」（根拠、学び方）

「どうして考えや結論が変わったのか」（学びの変容）

「次はどのようなことを知りたいか、どのようなことをしたいか」（関心・意欲）など

これらの視点は網羅的に設定するのではなく、焦点化させながら単元の指導計画に位置付けるようにする。

※　評価規準作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料【小学校・中学校 社会】
（平成２３年１１月 国立教育政策研究所）